

担い手育成特定資産事業活用事例の紹介 吉田 祐一郎さん(奥州市)

執筆者 奥州農業改良普及センター 佐藤 亮太

平成 28 年度に奥州市江刺で新規就農した吉田祐一郎さんを紹介します。

関東で他産業に従事していた祐一郎さんは、28 歳の時に帰郷。

当初は、就農を考えていませんでしたが、近所でトマトを栽培する県農業農村指導士に誘われたことを契機に、農業を仕事にしたいと考えるようになりました。

その後、1 年間の研修を受講し、就農した祐一郎さん。

ピーマン農家である親から継承した施設・機械を活用できたおかげで栽培管理に集中できましたが、ほ場ごとの条件の違いに苦戦し、就農 1 年目は、なかなか収量が伸びませんでした。

そこで、4 年目の令和 2 年度に、岩手県農業公社の担い手育成特定資産事業を活用してプラソイラを導入し、ハウス内の土壌改良に取り組みました。

その成果もあり、就農 5 年目となる令和 3 年度には、地域の平均単収を上回る 13t/10a を記録し、着実に栽培技術を身につけています。

更なる単収向上を目指している祐一郎さんは、現在、JA 野菜部会トマト専門部の仲間と共に、トマトの生育環境のモニタリング調査に取り組んでいます。

「農業はおもしろい。自分のやり方を模索し、経験を積み重ねながら、質にこだわったトマトを作っていきたい。」と語る祐一郎さん。さらなる未来を見据えています。



ハウス内にて



令和2年度事業で購入したプラソイラ